

令和4年度 学校経営報告書

学校番号	15	学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 伊豆高原分校	校 長 名	長崎 良夫
------	----	-------	------------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
守 る	安全・安心・健康に過 ごす知識・技能の獲得	獲得した知識、 技能を生かし、 指導することが できた。	年2回の職員 研修で、生徒の 実態に対する 対応を全体で 確認すること ができた。	A	・小さい学校なので全員で生徒を知ることができた。 ・個々の課題が多く、対応は学年によるところが大きくなってしまった。
	感染症対策の継続的 な対応	マニュアルに 即した感染症 対策が出来た。	基本的な対応 を確実に行っ ていくことが できた。	A	・校内のコロナ対策で、校内の感染者の拡大はなかった。 ・with コロナに対応した教育活動について考えていきたい。
	自己調整力の育成	自立活動の内 容を踏まえた 校内自立活動 研修会の実施 を年2回	外部講師によ る研修、テーマ 別によるグル ープ研修を行 った	A	・SCの研修は体験役に立った。外部講師研修は今後も続けたい。 ・生徒自身の調整力（その前の自己理解から）をつける指導も大切。
	互いを認め合い人権 を守る心の育成	各職員で指導 方針が共有さ れたか	経験別のグル ープに分かれ て意見交換を したことでそ れぞれのグル ープの考え方 がわかった	B	・生徒にかけ言葉も気を付けたい。 ・人権研修をもっと早めに行いたかった。 ・次年度は学期に1回は行いたい。
	生徒の実態を考慮し た防災体制の充実	災害時の対応 について考え ることができ た。	事前指導、防災 訓練、事後指導 と一連の流れ を作り定着を 図った。	A	・どの生徒も避難の仕方については理解でき行動できた。 ・新校舎移転を控え、行動の仕方について、繰り返しの指導を行う。
	重複障害生徒の安全 管理	VOCA 等の教材 教具の紹介年 2回	生徒について の具体的対応 について実技 を行いながら 研修を行った	B	・具体的な事例を挙げての研修は役に立った。 ・自立活動教材をもっと伝えたかった。
育 む	主体的で対話的な学 びの場となる授業づ くり	学ぼうとする 力・生きる力を 身につける学 びの充実	生徒の声を拾 ったり、それを 基にした授業 展開をしたり することが増 えてきた。	A	・職員の半分以上が一人1授業の実施ができた。 ・ICTのメリットデメリットを理解しながら、効果的な活用をしたい。

	自立と社会参加を目指した職業の授業の充実	キャリア教育の充実卒業後につながる資料となる。	職業の授業の充実に連れてどのような内容を抑えることが必要か全体で確認することができてきた。	A	・学年ごと年間指導計画を作成、確認ができた。 ・生徒の実態に応じて内容の活用、見直しを図りたい。
	関係機関と連携した生徒の家庭支援	生徒のプロフィール作成 100%校内での共有年1回指導方針について会議が行われる。	プロフィール作成 100%。学年内での共有はできた。	A	・全員のキャリアパスポートの作成ができた。 ・どのように活用していくかが今後の課題。
	授業の充実を図る専門性の向上	外部講師による職員研修年1回特別支援教育の専門性の向上	外部講師による授業研究および助言を2回実施した。	A	・外部講師研修、定期訪問での指導、助言が大変役に立った。
つなぐ	小中学校（部）との連携移行支援体制整備	学校の方針について説明した。各学校の実態を把握し、今後について協議した。	次年度入学希望者について、中学校に出向き様子をうかがった。また必要に応じて支援方法について助言した。	A	・早めに情報収集し、必要に応じて関係機関とつなぐことを伝えてきた。 ・本校入学も視野に得た情報を今後の学校生活や本校入学後に生かすかが課題となる。
	情報共有と情報発信	小中学校（部）に出向いて支援が行われる。	相談件数 93 件	A	・相談件数が昨年度に比べ増えてきている。 ・体験入学やオープンスクールを活用して中学の担任等にも特別支援学校の教育を知ってもらうようにする。
	学校再編に向けた共生共育の実践	互いを理解、尊重し、自ら連携・協働的に活動する生徒を育む。	両校とも交流を楽しみにしている様子が見られた。高校3校の交流担当者との打ち合わせを実施した。	A	・生徒も教員も交流を楽しみにしており参加することができた。 ・高校の生徒数の増加により、どのような共生共育を行っていくか今後確認していく。
高める	お互いを支え合う関係づくりと働きやすい職場環境の構築	具体的留意点や配慮事項が共有された。職員室の居心地の良さ 90%以上	職員会議、終礼などで情報共有した。職員室の居心地が良いと答えた職員 90%	B	・生徒の様子は共有できたが、したが、課題を抱えている生徒への具体的対応についてもっと深めたかった。 ・さらにお互いが声をかけやすい雰囲気づくりを行いたい。

	「チーム伊豆高原」による、全員参加の業務改善	19 時退勤 90% 以上 多忙感を感じない 80% 以上	19 時退勤達成度 60% (昨年度比 5 %アップ)	B	・ 移転業務を抱えながら、業務を効率的に行おうとする意識が感じられた。 ・ 一方で業務が偏ったり、集中したりする時期がまだあるので改善を図りたい。
	不祥事根絶	健全な職場と加害交通事故・違反根絶	交通事故犯、個人情報漏洩などの不祥事ゼロ	A	・ 安全運転管理も始まり、より安全運転への意識が高まった。 ・ ヒヤリハットを共有し、今後の不祥事ゼロを続けたい。